

つくほ治療院新聞

通巻19号

口蹄疫に思ふ・・・

ちょうど一年前は新型インフルエンザが世間を騒がせていました。最近宮崎県で口蹄疫ウイルスによる牛の伝染病が世間を騒がせています。口蹄疫ウイルスは感染力が強いので被害が拡大しないよう、感染が確認された家畜は殺処分されます。普段からためらいもなく牛肉を食べているのに、矛盾しているかもしれないませんが、可哀そうというか複雑な心境になりました。同時に、韓国ドラマ「チャングムの誓い」のワンシーンを思い出しました。それは、とある村に流行り病が

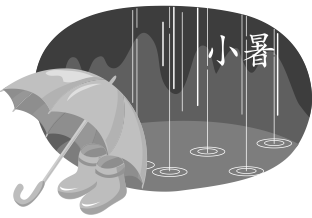
発生した際、村が封鎖され村民を皆殺しにして他への感染を防ぐ政策がとられました。しかし、医女チャングムは、勇気を持って村に入り手さぐりで治療方法を考え、村を救ったというシーンです。それまで皆殺しにするのが当然と考えられていたのに、命をかけて解決策を見つけ出しました。放っておけば国全体が被害にあうかもしれないので、当たり前政策かもしれませんが、科学が発達した現代は口蹄疫が感染力の強いウイルスだと事前に分かっているのです、他の

二十四節季

小暑

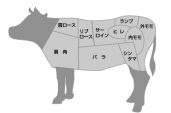
(しょうしょ)

旧暦六月末の月の正節で、新暦七月七日ごろです。この日から暑気に入り、日脚は徐々に強まってきました。



かっているのです、他の

家畜に感染しないために、殺処分する事は至極当然の政策かもしれません。現段階では、これが最善の策なのでしようが、500年前の韓国で人に対して行われたであろう事が、現代で牛に対して行われている事に心が複雑になりました。我々は日頃、何かの命を分けてもらって生かされているという事を、つい忘れてしまいます。これらの家畜は、結果的に人のために犠牲になるのかもしれませんが、全うする事なく命を絶たれてしまいました。殺処分にあつた事をただ悲しむのではなく、意味ある死にするために、日頃から命をわけてもらって生かされていることを再認識していきたいと心に感じました。



『やっかいな高慢心』

私たちの心に高慢心というものが出てくると、その人の成長が止まってしまうばかりでなく、その人を取り巻く人間関係を悪くして、ついには幸せを遠のけてしまうようになるものです。また、このやっかいな高慢心は、忙しさにまぎれて私たちの心に忍び込み、思いやりの心を滅ぼしてしまいます。

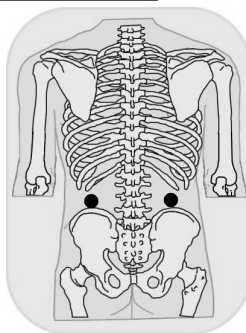
だれでも順調なときとか、ゆつたりと余裕のあるときには、低く優しい心を持ち続けることが出来やすいものですが、馴れてきたり、忙しくなってくると、とかく自己を振り返って反省するゆとりがなくなってしまうます。そして、いつの間にか、高慢心のトリコになってしまいます。自分がうぬぼれていないか、思いあがっていないか、いつも心のあり方を確認することが大切です。

「一日一話」より

志室

(しつ)

蔵する場所を「室」と言います。志を蔵する場所という意から名付けられました。志は腎のつかさどりなので、疲れ易い・尿の出が悪い・精気の弱まりなどに有効とされます。また「腰は腎の府なり」の言葉からも分かるように、腰痛にも効果的です。場所は、ヘソの高さで、背骨より三寸(指四本分)外側に取ります。



7月の定休日

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



『COPD』

Chronic Obstructive Pulmonary

Diseaseの頭文字を取って、COPDと呼んでいます。日本語では慢性閉塞性肺疾患と言います。以前に肺気腫や慢性気管支炎と呼ばれていたものが、これに当たります。粉塵や大気汚染も原因になりますが、患者の九割が喫煙者ということで、最大の原因とされています。これらの原因によって、空気の通り道である気管支や酸素交換を行う肺胞が障害され、空気の出し入れがうまく出来ないようになります。その結果、通常の呼吸が出来なくなったり、咳や痰が増加します。重症化する

め、呼吸困難になったり、意識障害を起こしたりします。ちようどストローをくわえて呼吸をしているような感じ



院長の独り言

我が国は、今や世界的な長寿国となりました。長く生きられる事は大変素晴らしい事です、高齢化が進むと慢性の病気が多くなります。慢性の病気の多くは、すぐに発症することはなく、日々の積み重ねによって発症し、少しずつ進行していきます。ほとんどの方は、この辺りで異変を感じ、初めて改善しなければならぬと気が付きます。肺で例えれば、若い頃は柔らかいゴム風船だったのに、弾力性が低下して紙風船みたいになってきてから、ゴム風船に戻したいと思う訳です。だいたい喫煙を始めて20年位すると、咳き込みながらタバコを吸うようになります。更に20年位たつと息切れが現れます。これが重症化すると、わずかな動作で息が苦しいため、死ぬまで何処へ行くにも酸素ボンベが必要になります。人によっては、死ぬより辛いと言う人もいますが、慢性の病気のほとんどが自分自身で予防が可能です。時代は長生きになり、喫煙開始は低年齢化していますから、今後患者さんの増加は必然なのかもしれません。

《連載》東洋医学講座

三焦の生理

今まで五臓六腑についてお話してきましたが、いよいよ最後の三焦になりました。三焦とは、何処を探しても形として存在することはありませんが、東洋医学は働きに対して考えますから、体を理解する上で必要な物として存在しています。

三焦とは、三つの焦げと書きます。三つとは、上・中・下を示します。焦げは、熱、陽気を示します。各々の働きについてお話しますと、上焦とは、胸の辺りを示し、心や肺が燃える(働く)と



から、ここが低下すると消化不良を起こしたり、気血を作るのが低下します。下焦は、下腹部の辺りを示し、肝や腎が燃える(働く)ところ

医食同源

じくやんじく

食用の種子の部分は、食物繊維が多く、便通をよくします。胚芽の部分にはリノール酸が含まれ、動脈硬化を防ぎます。種子は外皮が硬く、消化しにくいので、胃腸の弱い人は、よく噛んで食べるようにしましょう。乾燥させて粉末にしたものは、胃腸の働きをよくし、滋養強壮の効果があります。ヒゲは利尿・止血・降圧などの作用があり、生薬名を「南蛮毛」と言います

執筆余話

お陰様で、先月お話ししていた第二子が、無事六月八日に誕生致しました。朝に陣痛が始まり、昼過ぎの出産だったため、出産当日の一日を、お休みをいただいしまいました。ご迷惑をおかけ致しました患者さんには、紙面をおかりしてお詫び申し上げます。また、多くの患者さんにお祝いの言葉を頂戴し、お礼申し上げます。私のわがままで仕事を休み、出産に立ち会わせて頂きましたが、涙したこの重みは、代え難い経験になりました。ちなみに、男児で名を「諒宥」(りょうすけ)と名付けました。

